

I C O M日本委員会
平成 2 8 年度委員会及び総会 議事次第

日 時	平成 2 8 年 5 月 1 3 日（金） 1 3 時～ 1 5 時
場 所	国立新美術館 講堂
議 題	1. 平成 2 7 年度事業報告及び決算について 2. 平成 2 8 年度事業計画及び予算について 3. 役員の改選について 4. 新入会員、退会会員の承認について 5. I C O M 京都大会の準備状況について 6. その他
配付資料	1. 平成 2 7 年度役員名簿 2. 会員名簿（平成 2 8 年 5 月 1 0 日現在）（非公開） 3. 平成 2 7 年度事業報告及び収支決算（案） 4. 平成 2 8 年度事業計画及び収支予算（案） 5. 平成 2 8 ・ 2 9 年度役員名簿（案） 6. 新入会員及び退会会員一覧（非公開） 7. I C O M 京都大会 2019 説明資料 8. I C O M 日本委員会災害救援タスクフォースの設置について（案） 9. 国際委員会日本語訳 改正案

I COM日本委員会 平成27年度役員

顧問	五十嵐耕一	元日本博物館協会専務理事
	近藤 信司	国立科学博物館顧問
	佐々木正峰	文化財建造物保存技術協会理事長
	佐野文一郎	日本工芸会顧問
	林田 英樹	日本工芸会理事長
委員長	青木 保	国立新美術館長
副委員長	林 良博	国立科学博物館長
	原 俊夫	原美術館長
	半田 昌之	日本博物館協会専務理事
委員	伊藤 文吉	北方文化博物館長
	神庭 信幸	東京国立博物館特任研究員
	栗原 祐司	東京国立博物館総務部長
	菅谷 博	ミュージアムパーク茨城県自然博物館長
	内藤 正人	慶應義塾大学アート・センター所長
	南條 史生	森美術館長
	水嶋 英治	筑波大学教授
監事	河野 哲郎	元東京国立博物館専門職員
	三浦 定俊	文化財虫菌害研究所理事長

平成27年度事業報告及び収支決算（案）

1. 平成27年度事業報告

（1）会議

- ・委員会及び総会の開催
平成27年5月20日（国立新美術館）

（2）諸活動

- ・「国際博物館の日」記念事業の実施（日本博物館協会と共催）
- ・ICOM-ITC（国際研修センター、北京）研修会への参加
第4回 平成27年4月13日～21日 渡辺友美
第5回 平成27年11月2日～10日 青木加苗・笹木一義
- ・ネパール地震への対応
お見舞い状の送付
募金活動の実施（義援金254,663円をICOMネパールへ送金）

（3）大会招致関係

- ・ICOM 関係者による現地視察
平成27年4月21日～22日 国立京都国際会館ほか
- ・イベント開催
平成27年5月17日 「国際博物館の日」シンポジウム（京都国立博物館）
- ・ICOM 大会招致準備委員会の開催
平成27年5月11日 第5回委員会（東京国立博物館）
7月 6日 第6回委員会（東京国立博物館）
- ・動画、パンフレットの作成
- ・諮問委員会のプレゼンテーションと投票
平成27年6月1日～3日 ユネスコ本部ビル（パリ）

2. 平成27年度収支決算（案）

（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

<収入の部>

単位（円）

科目	平成27年度予算額	平成27年度決算額	備 考
会費	4,953,300	5,268,900	団体33 個人173
雑収入	1,000	380	預金利息
前期繰越金	535,579	535,579	
計	5,489,879	5,804,859	

<支出の部>

単位（円）

科目	平成27年度予算額	平成27年度決算額	備 考
ICOM 本部会費	4,210,300	4,340,507	日本ユネスコ協会連盟会費
負担金	20,000	20,000	
事業費 ※	300,000	288,878	
事務費	580,000	661,406	
会議費	20,000	16,416	
通信費	100,000	151,688	
消耗品費	10,000	10,000	
印刷製本費	20,000	47,520	
旅費	20,000	15,380	
賃金	400,000	400,000	
雑費	10,000	20,402	
予備費	100,000	0	
次期繰越金	279,579	494,068	
計	5,489,879	5,804,859	

※事業費内訳

研修会（ICOM 国際研修センター、北京）への会員の派遣	108,620円
ICOM 京都大会に関するチラシの作成	88,560円
ほか、大会招致に係る事務連絡費、資料郵送費、等	91,698円

平成 28 年度事業計画ならびに収支予算について

1. 平成 28 年度事業計画（案）

（1）会議

ア．委員会及び総会の開催 平成 28 年 5 月 13 日、国立新美術館

イ．その他必要に応じ諸会議の開催

（2）諸活動

ア．「国際博物館の日」記念事業の実施（共催）

イ．ICOM 諮問委員会・総会への出席（ミラノ） 平成 28 年 7 月 3 日～9 日

（3）情報の提供

ア．「博物館研究」誌への「ICOM レポート」の掲載

イ．ICOM 日本委員会ウェブサイトの更新（随時）

ウ．Facebook による情報発信

エ．ICOM ミラノ大会に関する報告書の作成

（4）京都大会に向けた準備

ア．「国際博物館の日」シンポジウムの開催

平成 28 年 5 月 22 日、東京文化財研究所

イ．組織委員会の設置（具体的準備体制の整備）

ウ．その他

（5）その他

ア．ICOM 本部助成に基づく ICR、ICOM ネパール・日本・中国による共同プロジェクト
「地震災害後の地域コミュニティ再生における地域博物館の役割」ワークショップ
への参加等

イ．ICOM-ITC（国際研修センター）事業への参加者派遣

2. 平成28年度収支予算（案）

（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

<収入の部>

単位(円)

科 目	平成28年度予算額	平成27年度予算額	備 考
会費	5,495,000	4,953,300	団体35、個人199
雑収入	1,000	1,000	
前期繰越金	494,068	535,579	
計	5,990,068	5,489,879	

<支出の部>

単位(円)

科 目	平成28年度予算額	平成27年度予算額	備 考
イコム会費	4,584,700	4,210,300	日本ユネスコ協会連盟会費 封筒
負担金	20,000	20,000	
事業費 ※	400,000	300,000	
事務費	630,000	580,000	
会議費	20,000	20,000	
通信費	150,000	100,000	
消耗品費	10,000	10,000	
印刷製本費	20,000	20,000	
旅費	20,000	20,000	
賃金	400,000	400,000	
雑費	10,000	10,000	
予備費	100,000	100,000	
次期繰越金	255,368	279,579	
計	5,990,068	5,489,879	

※事業費内訳

ミラノ大会報告書の印刷費、
ICOM-ITC への参加者派遣に係る費用

I COM日本委員会 平成28・29年度役員（案）

顧問	五十嵐耕一	元日本博物館協会専務理事
	近藤 信司	国立科学博物館顧問
	佐々木正峰	文化財建造物保存技術協会理事長
	佐野文一郎	日本工芸会顧問
	林田 英樹	日本工芸会理事長
委員長	青木 保	国立新美術館長
副委員長	佐々木丞平	京都国立博物館長
	銭谷 眞美	東京国立博物館長
	林 良博	国立科学博物館長
委員	伊藤 文吉	北方文化博物館長
	神庭 信幸	東京国立博物館特任研究員
	栗原 祐司	東京国立博物館総務部長
	菅谷 博	ミュージアムパーク茨城県自然博物館名誉館長
	内藤 正人	慶應義塾大学アート・センター所長
	南條 史生	森美術館長
	水嶋 英治	筑波大学教授
監事	河野 哲郎	元東京国立博物館専門職員
	三浦 定俊	文化財虫菌害研究所理事長

事務局長	半田 昌之	日本博物館協会専務理事兼事務局長
事務局次長	仲谷 昌久	日本博物館協会事務局次長

ICOM(国際博物館会議) 京都大会 2019

説明資料

はじめに

1. ICOM(国際博物館会議)について
2. ICOM大会について
3. ICOM京都大会の概要
4. 開催に向けての組織体制
5. スケジュール概要

2016年5月13日

ICOM日本委員会
日本博物館協会

はじめに

2015年6月2日、フランス・パリのユネスコ本部ビルで開催された国際博物館会議(ICOM)【美術館を含む:以下博物館という】の年次総会および諮問委員会において、3年ごとに開催される大会について、第25回目となる2019年は日本の京都市で開催されることが決定しました(2019年9月1日～7日)。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの前年に、世界の博物館関係者が一同に集うICOM大会が京都で開催されることは、単に博物館のみならず、日本の優れた文化芸術を広く世界に発信するとともに、来日する多くの観光客が日本の歴史や文化に親しみ、博物館のプログラム等をとおして多彩な日本文化や創造的なアートを体感してもらえる、またとない機会です。

本会議の開催地となる京都市は、世界的にも人気の高い国際観光都市であるとともに、市内に約200もの博物館施設を擁し、寺社の宝物館・記念館や大学博物館などの多彩な施設も含め、観光と連動した博物館の新しいあり方を世界に示す絶好の条件を備えています。

一方、日本全国には約5,800を数える博物館が存在し、それぞれが特色ある文化資源を有する世界でも有数の博物館大国ですが、その運営は財政や人材不足といった課題を抱えており、2019年のICOM大会の開催は、こうした日本全体の博物館にとっても、それぞれの施設の活性化を図り、未来志向の博物館の役割を示す絶好の機会と言えます。

このように、博物館を核とする世界会議を日本に招致できた機会を捉え、会議の成功は固より、開催地京都での観光連動文化イベントとともに、全国の博物館の活性化と振興発展を柱として、このICOM大会を成功に導くことは、今後日本の文化芸術立国としての基礎を強固なものとするのみならず、未来志向の博物館の役割を最大限に活用した地域振興を促進し、地域創生に大きく寄与できるものと確信しています。

日本の博物館関係者の総力を挙げて、本大会を成功に導きたく、多岐にわたるご支援ご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

招致への歩み

- * 2012年:ICOM日本委員会にICOM大会招致検討委員会設置(近藤信司委員長)
- * 2013年:ICOM日本委員会総会にて招致する決定、ICOM大会招致準備委員会設置(青木保委員長)
- * 2014年:ICOM本部に立候補表明、審査のための書類提出
- * 2015年:ICOM本部が開催候補地の京都市を視察、(最終立候補値は米国シンシナティと京都の2都市)
6月のパリでの総会での選挙・諮問委員会での審議を経て2019年の開催地を京都に決定。

1 ICOM(国際博物館会議)について

国際博物館会議(ICOM:The International Council of Museums)は、世界の博物館の進歩発展を目的とする唯一最大の世界的博物館の専門組織であり、歴史や美術、考古学、民俗、科学、技術、自然史などの博物館関係者の世界的な集まりである。また、1946に創設されたICOMは、UNESCOと公式な協力関係を結んでいる非政府団体(NGO)であり、国連の経済社会委員会の顧問としての役割を果たしている。

2016年1月現在、加盟国は137の国・地域に30,000人以上の会員を持ち、本部はパリに置かれている。

ICOMの会員は加盟各国毎で構成する国別の国内委員会(National Committee)と、専門分野の国際委員会(International Committee)に所属することができ、現在、30の国際委員会が独自の活動を展開している。

ICOMの主要ミッションは、①文化財の不法輸出入の防止、②リスク・マネージメント、③文化と知識の普及促進、④有形・無形遺産の保護の4つであり、これらのミッションを遂行するために、専門委員会(Technical Committee)として倫理委員会(Ethics Committee)や災害救援タスクフォース(Disaster Relief Task Force)等が常置機関として置かれている。

なお、2015年11月に開催されたUNESCOの総会において、55年ぶりとなる博物館に関する勧告が採択されたが、今後の人類の未来に対する博物館の重要性を見据えた本勧告の作成にもICOMが大きな役割を果たした。

2 ICOM大会について

ICOM大会(ICOM General Conference)は3年に1回、世界中の都市で開催され、2004年に韓国・ソウル、2007年にオーストリア・ウィーン、2010年に中国・上海、そして2013年にブラジル・リオデジャネイロで、今回は本年2016年にイタリア・ミラノで開催される予定である(表1)。

大会は約1週間の期間で行われ、開会式や基調講演、全体会議が開かれるメインの会議場とともに、周辺地域の博物館を中心に開催される各国際委員会や、見学ツアー、また、多くの博物館の協力の下に大会に合わせて実施されるさまざまな特別展やイベント、入館者へのサービスなどが展開される。

ICOM大会は、それぞれの大会ごとにテーマを定め、全体の基調講演や各国際委員会もそのテーマに沿った内容で実施される。開催国にとって大会は、単なる専門家による世界会議という位置付けではなく、大会の終了後を視野に長期的な博物館の振興策と連動させることで、継続的な博物館の発展を促すきっかけとして有効に機能するケースも多い。

2004年のソウル大会のテーマは「博物館と無形文化遺産」であったが、韓国ではこの大会の開催を契機に国内の博物館の整備を進め、無形文化財の保護・育成を促進することができ、大会終了後もICOM韓国委員会は、『Intangible Heritage(無形文化遺産)』と題する学術誌を毎年発行し、国内だけでなく世界的にも高い評価を得ている。

またICOMは1977年以降、5月18日を「国際博物館の日(International Museum Day)」と定め、毎年テーマを定め、様々なイベントや入館無料等の行事を世界的に行っており、国内でも日本博物館協会の主催事業として毎年実施し、約300施設が参加して関連の記念事業を展開している。

3 ICOM京都大会の概要

1) ICOM大会

◎ 開催期間: 2019年9月1日(日)～9月7日(土)

◎ 世界の博物館関係者による国際専門家会議

・参加者: 約3,000人(国外; 2,000人、国内; 1,000人)

◎ 会場(国立京都国際会館(メイン会場)／京都および関西圏を中心とする博物館・美術館／大学 など)

◎ 大会の構成概要

* 開会式、オープニング・パーティー(メイン会場)

* 基調講演(メイン会場)

* 博物館トレードフェア(メイン会場)

* 国内委員会・国際委員会、地域連盟、加盟機関等の会議(メイン会場)

* 国際委員会(30の委員会に分かれての研究発表、専門家会議)

(メイン会場、京都、関西圏の博物館・美術館・大学 など)

* ICOM会長等役員選挙(メイン会場)

* オフサイト・ミーティング

(京都、関西圏の博物館・美術館・大学 など)

* エクスカーション・視察

(京都、関西圏、広域の博物館・美術館 など)

* 総会

* 諮問委員会、閉会式(メイン会場)

* クロージング・パーティー

◎ 運営体制;

* 組織委員会(全体統括、資金調達統括、全体調整)

* 運営委員会(本部対応、国際委員会・プログラム統括、各ワーキング統括、関連事業調整・事務局統括)

2) 開催地 ICOM京都大会関連イベント(2019年8月末～9月 ICOM京都大会の前後)

◎ 京都ミュージアム・ウィーク(仮称)

・参加者: 約100,000人(京都市民、国内外の博物館関係者・観光客)

* 会場(京都市内を中心とする博物館・美術館、寺社、大学など)

* 展覧会、参加型ワークショップ、文化財特別公開 など

◎ 運営体制;

* 京都推進委員会(京都府、京都市、京都経済界、博物館・大学・寺社 など)

3) 国内博物館の活性化事業(2016年～2020年 ICOM京都大会を核とする中期計画)

◎日本の博物館未来プロジェクト

- * 日本の博物館情報の世界への発信(ウェブサイト、ガイドブック など)
- * 国内博物館の多言語化支援(施設概要、所蔵資料・展示解説 など)
- * 人材育成(ICOM国際委員会・海外研修への派遣、国内研修 など)
- * 博物館関連法、制度的基盤整備

* ミュージアム・メッセ(仮称)の開催

(2018年:東京、2019年:京都、2020年:地方都市)

- ・国内外の博物館関係者、一般を対象とする博物館の普及啓発イベント
- ・2019年ICOM京都大会のサポートイベントとしての位置付け
- ・2018年度の全国博物館大会との連動(日博協90周年大会)
 - ・日本の博物館の総合的な紹介、個別博物館紹介ブース
 - ・博物館関連の技術、事業紹介ブース

◎ 運営体制;

- * 博物館未来プロジェクト推進委員会(日本博物館協会、各館種別組織、全国の博物館、関連学会、関連省庁、博物館関連企業 など)

ICOM京都大会 2019 構成概要

ICOM本部
(各委員会)

大会組織委員会
運営委員会・事務局
各ワーキング・チーム

文科省・文化庁・
観光庁 他

京都推進委員会
(府・市・京博連・大学・寺社・
京都経済界)

未来プロジェクト
推進委員会
(日博協、関連組織、学会)

ICOM大会

世界の博物館関係者による

3年に一度の世界会議

参加者 (国外2,000人、国内1,000人)

開会式、全体会議、国際委員会、見学会、閉会式

会場 (国立京都国際会館／京都を中心とする博物館・美術館)

開催地関連イベント

京都を中心とするミュージアム・ウィーク

動員100,000人

(一般市民、国内外観光客)

会場京都を中心とする

博物館・美術館・寺社・大学

特別展、関連イベント、文化財特別公開

博物館フェア

日本の博物館

未来プロジェクト

日本の博物館情報の海外発信、

多言語化支援、

人材育成、海外研修支援、

国内専門委員会設置

日本ミュージアム・メッセ

日本博物館協会90周年

博物館制度整備

2016 ICOMミラノ大会 スケジュール概要（参照資料）

	午前	昼	午後	夜
2016年7月3日(日)	9:00 – 13:00 諮問委員会 10:00 – 10:30 コーヒーブレイク	13:00 – 14:00 昼食	14:00 – 16:00 諮問委員会分科会 (国内委員長／国際委員長ミーティング) 16:00 – 16:30 コーヒーブレイク 16:30-17:30 諮問委員会 17:30 – 18:30 国際委員会、地域連盟の理事会	
2016年7月4日(月)	9:30 – 12:30 開会式 基調講演	12:30 – 14:00 昼食 12:30 - 13:00 ICOM70周年記念展覧会開会式 トレードフェア開幕	13:00 – 14:00 新入会員のためのプレゼンテーション 14:00 – 14:30 事例発表 14:00 – 18:00 国際委、国内委、地域連盟、 加盟機関等のミーティング 15:45 – 16:15 コーヒーブレイク	19:30 – 23:30 オープニング・パーティ
2016年7月5日(火)	9:00 – 10:30 基調講演 10:30 – 11:00 コーヒーブレイク 11:00 – 13:00 国際委、国内委、地域連盟、 加盟機関等のミーティング	13:00 – 14:00 昼食 13:00 – 14:00 若手向けメンタリング・セッション 13:00 – 14:00 テーマ別ワークショップ／事例発表	13:30 – 15:00 ICOM記念講演 14:00 – 15:00 パネル・ディスカッション 14:15 – 15:15 テーマ別ワークショップ／事例発表 15:30 – 18:30 国際委、国内委、地域連盟、 加盟機関等のミーティング 16:30 – 17:00 コーヒーブレイク	19:30 – 23:30 ソーシャル・イベント
2016年7月6日(水)	9:00 – 11:00 基調講演 ICOM新ロゴマークの発表 11:00 – 11:30 コーヒーブレイク 11:30 – 13:00 国際委、国内委、地域連盟、 加盟機関等のミーティング	13:00 – 14:00 昼食 13:00 – 14:00 メンタリング・セッション 13:00 – 14:00 昼食付きワークショップ／事例発表	14:30 – 18:30 国際委、国内委、地域連盟、 加盟機関等のミーティング 15:45 – 16:15 コーヒーブレイク	19:30 – 23:30 ソーシャル・イベント
2016年7月7日(木)	(オフサイト)			
2016年7月8日(金)	(エキスカージョン)			
2016年7月9日(土)	9:00 – 14:00 総会	14:00 – 15:00 昼食	15:00 – 16:30 諮問委員会 16:30 – 17:00 コーヒーブレイク 17:00 – 18:00 執行役員の会合	20:00 – 23:30 閉会式 クロージング・パーティ

(ICOM京都大会実施に要する経費の概要)

	実施事業	概算金額	備考
1)	ICOM京都大会(2019.9.1～9.7) ・会場費・参加登録電子システム ・電子投票システム、IT機器、 ・大会運営 ・翻訳／同時通訳、警備 ・ICOM本部調整連絡・組織委員会運営費 ・広報、宣伝、ミュージアムフェア ・大会プログラム／事業 ・旅費／宿泊費等(200名分のグラント含む) ・管理費(通信、保険、撮影、事務局経費) ・その他	330,000,000 120,000,000 10,000,000 50,000,000 25,000,000 70,000,000 50,000,000 5,000,000	2016～19年の合計見込み
2)	開催地 ICOM京都大会関連イベント(2019.8.末～9) ◎京都ミュージアム・ウィーク(仮称) ・企画、調整 ・広報、宣伝、共通パス ・運営補助、管理	別途調整	
3)	国内博物館の活性化事業(2016～2020) ◎日本の博物館未来プロジェクト(仮称) ・情報発信 ・他言語化支援 ・海外派遣、研修、人材育成 ・ミュージアム・メッセ 2018	別途調整	

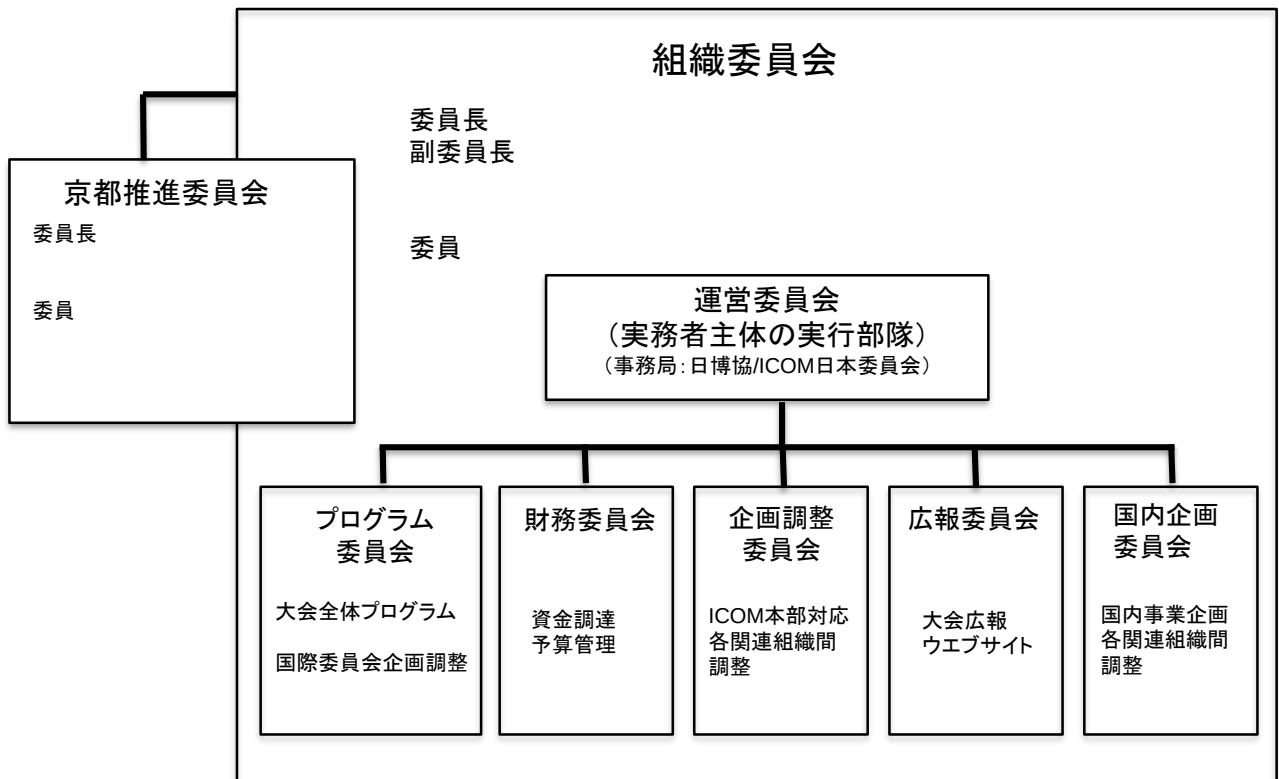
4 開催に向けての組織体制の概要

◎ 組織委員会を中心に、開催地に京都推進委員会、実務実行機関として運営委員会を置き、必要に応じて顧問等を配し、実効性のある準備を進める。

- * 組織委員会(全体計画統括、資金調達統括 など)
- * 京都推進委員会(京都中心の協力体制調整、開催地関連イベント企画 など)
- * 運営委員会(本部対応、国際委員会・プログラム統括、各ワーキング統括、関連事業調整・事務局統括、全体調整)
 - ・事務局は日本博物館協会を中心に組織する。

★ 組織委員会の基礎を固めた後、必要に応じて顧問等の配置を検討する。

組織委員会構成イメージ(素案)



◎ 組織委員会設立に際してのメンバー(素案 五十音順)

青木 保	ICOM日本委員会委員長、国立新美術館長
青柳 正規	前 文化庁長官
荒井 一利	日本動物園水族館協会会長、鴨川シーワールド館長
有馬 頼底	京都仏教会理事長、臨済宗相国寺派管長、相国寺承天閣美術館長
有松 育子	文部科学省生涯学習政策局長
安藤 忠雄	建築家
安藤 裕康	独立行政法人国際交流基金理事長
岩科 司	日本植物園協会会長、国立科学博物館筑波実験植物園園長
門川 大作	京都市長
木下 博夫	国立京都国際会館館長
久留島 浩	全国歴史民俗系博物館協議会、国立歴史民俗博物館館長
小松 弥生	文部科学省研究振興局長
酒井 忠康	美術館連絡協議会会長、世田谷美術館館長
佐々木丞平	独立行政法人国立文化財機構理事長、京都国立博物館長、京都市内博物館施設連絡協議会会長
佐藤 禎一	国際医療福祉大学教授
下川眞樹太	外務省国際文化交流審議官(大使)(予定)
銭谷 眞美	公益財団法人日本博物館協会会長、東京国立博物館長
高階 秀爾	大原美術館館長
立石 義雄	京都商工会議所会頭
建畠 哲	全国美術館会議会長、埼玉県立近代美術館館長
田中 恒清	京都府神社庁長・石清水八幡宮宮司
田村明比古	観光庁長官(予定)
徳川 義崇	徳川美術館館長
長尾 真	京都市音楽芸術文化振興財団理事長、元京都大学総長
林 良博	全国科学博物館協議会理事長、国立科学博物館館長
馬淵 明子	独立行政法人国立美術館理事長、国立西洋美術館館長
蓑 豊	兵庫県立美術館館長
宮田 亮平	文化庁長官
村田 純一	公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー理事長
柳原 正樹	京都国立近代美術館長
山極 壽一	京都大学総長
山田 啓二	京都府知事
鷲田 清一	京都市立芸術大学長

5 スケジュール概要

項目 年度	実施事項概要	体制・運営他
2016	2) 国際委員会連絡窓口担当者 3) 組織委員会・京都推進委員会・運営委員会 発足 4) 運営担当会社内定 / ICOMミラノ大会ブース準備 5.22) 国際博物館の日シンポジウム(東京文化財研究所)	* 事務局体制整備 * 組織委員会運営 * 京都側体制整備
	7.3~9) ICOMミラノ大会(2019京都大会 ファースト・サーキュラー 提示) JAPANブースにて2019京都のPR / 国際委員会出席 / 閉会式にて2019 京都の紹介、開催地引継ぎ 8.28~9.2)世界考古学大会(WAC8) (同志社大学) 9) ICOMミラノ大会成果発表会(京都) 11.16~18) 全国博物館大会(高崎) 1) ICOM国際委員会連絡担当者研修会	* 国内協力体制 * 資金調達体制 * 国内関連事業 計画企画検討 * 2019京都大会 ウェブサイト開設
2017	5) 国際博物館の日シンポジウム 6) ICOM年次総会(2019京都大会 セカンド・サーキュラー 提示)	* 組織委員会 * 資金調達
	7~)各国際委員会へ参加者派遣 2019年開催の各国際委員会の内容についての企画・検討 *)博物館関係主要国際会議(AAM/MA など)に参加、PR 11) 全国博物館大会(大分) 11.14~17) 世界科学館サミット(日本科学未来館)	* 組織委員会 * 2019大会骨格確定 * 2018国内行事企画 * 2018国際委員会 委員長会議企画
2018	5) 国際博物館の日シンポジウム 6) ICOM年次総会 京都大会プログラム説明 7~)各国際委員会へ参加者派遣 2019年開催の各国際委員会の内容についての全体調整	* 組織委員会
	* 事務局の中核機能を京都に設置 9) 関係者全体会議(京都) 10) 国際委員会委員長招聘、事前説明会議 *)博物館関係主要国際会議(AAM/MA など)に参加、PR 11) ミュージアム・メッセ in Tokyo(2019サポートイベント) 全国博物館大会 / 日本博物館協会90周年記念式典	* 京都事務局体制整備 * 国内事業準備体制 * 国内・海外対応 継続施策検討
2019	5) 国際博物館の日シンポジウム ICOM大会最終準備	* 組織委員会 * 最終調整
	9) ICOM京都大会開催	* 組織委員会解散会
2020	6) ICOM年次総会 7~)各国際委員会へ参加者派遣	* 継続施策の実施
	11) 全国博物館大会 ICOM京都大会 成果総括フォーラム	

2016年5月13日

ICOM日本委員会災害救援タスクフォースの設置について（案）

2011 年の東日本大震災及び今般の熊本地震発生時における被災博物館の救援をはじめとする文化財レスキュー事業に関しては、国際的な関心を集めており、これまで ICOM の関係委員会（DRTF、ICOM-CC、ICMS、ASPAC 等）において随時報告等を行ってきた。

今後、2019 年に開催予定の ICOM 京都大会や、ブルーシールド国内委員会の設置に向けた動向等も勘案し、ICOM 日本委員会に災害救援タスクフォース（Disaster Relief Task Force）を設置し、文化庁及び文化財災害対策ネットワーク等との情報の共有を図り、随時 ICOM の関係委員会において情報の発信または収集を行うこととする。

委 員

栗原 祐司	東京国立博物館総務部長	DRTF メンバー、ASPAC 副委員長、 ICMS2015 年次大会参加
-------	-------------	--

神庭 信幸	東京国立博物館特任研究員	ICOM-CC メンバー
-------	--------------	--------------

マリサ・リンネ	京都国立博物館フェロー	DRTF2015 年次総会参加
---------	-------------	-----------------

※ 委員は、今後随時追加していくものとする。

• International Committee (国際委員会) 日本語訳

International Committee	日本語名
AVICOM	視聴覚と新技術国際委員会
CAMOC	都市博物館のコレクションと活動に関する国際委員会
CECA	教育と文化活動国際委員会
CIDOC	ドキュメンテーション国際委員会
CIMCIM	楽器の博物館とコレクション国際委員会
CIMUSET	科学技術の博物館とコレクション国際委員会
CIPEG	エジプト学国際委員会
COMCOL	コレクション収集に関する国際委員会
COSTUME	衣装の博物館コレクション国際委員会
DEMHIST	伝統建築物に関する博物館国際委員会
GLASS	ガラスの博物館・コレクション国際委員会
ICAMT	建築と博物館技術国際委員会
ICDAD	応用美術の博物館・コレクション国際委員会
ICEE	展示交流委員会
ICFA	美術の博物館・コレクション国際委員会
ICLM	文学博物館国際委員会
ICMAH	考古学と歴史の博物館とコレクション国際委員会
ICME	民族学の博物館・コレクション国際委員会
ICMEMO	公共に対する犯罪犠牲者追憶のための記念博物館国際委員会
ICMS	博物館保安国際委員会
ICOFOM	博物館学国際委員会
ICOM-CC	保存国際委員会
ICOMAM	武器・軍事に係わる博物館国際委員会
ICOMON	貨幣博物館国際委員会
ICR	地方博物館国際委員会
ICTOP	研修国際委員会
INTERCOM	運営管理国際委員会
MPR	博物館マーケティング・PR 国際委員会
NATHIST	自然史の博物館・コレクション国際委員会
UMAC	大学附属の博物館とコレクション国際委員会

• International Committee (国際委員会) 日本語訳 改正案

International Committee	日本語名
AVICOM	オーディオビジュアル及び映像・音響新技術国際委員会
CAMOC	都市博物館のコレクション・活動国際委員会
CECA	教育・文化活動国際委員会
CIDOC	ドキュメンテーション国際委員会
CIMCIM	楽器の博物館・コレクション国際委員会
CIMUSET	科学技術の博物館・コレクション国際委員会
CIPEG	エジプト学国際委員会
COMCOL	コレクティング国際委員会
COSTUME	衣装の博物館・コレクション国際委員会
DEMHIST	歴史的建築物の博物館国際委員会
GLASS	ガラスの博物館・コレクション国際委員会
ICAMT	建築・博物館技術国際委員会
ICDAD	装飾美術・デザインの博物館・コレクション国際委員会
ICEE	展示・交流国際委員会
ICFA	美術の博物館・コレクション国際委員会
ICLM	文学の博物館国際委員会
ICMAH	考古学・歴史の博物館・コレクション国際委員会
ICME	民族学の博物館・コレクション国際委員会
ICMEMO	公共に対する犯罪犠牲者追悼のための記念博物館国際委員会
ICMS	博物館セキュリティ国際委員会
ICOFOM	博物館学国際委員会
ICOM-CC	保存国際委員会
ICOMAM	武器・軍事史博物館国際委員会
ICOMON	貨幣博物館国際委員会
ICR	地方博物館国際委員会
ICTOP	人材育成国際委員会
INTERCOM	マネージメント国際委員会
MPR	マーケティング・交流国際委員会
NATHIST	自然史の博物館・コレクション国際委員会
UMAC	大学博物館・コレクション国際委員会